

廣島市の郊外

西 龜 正 夫

は し が き

都市の郊外とは、直接その都市と深い關係を有し、一面都市に依存すると同時に、一面都市に影響を及ぼす地域をいふのであるが、その範圍を何處までに限定すべきかは容易の問題でない。何となれば都市との關係といふものは都市を遠ざかるに従つて次第に薄くなつてゆくものであつて、海洋とか大山脈とかの様なものが無い限り、明瞭な限界線のあるべき筈はないからである。故に本論に於ては郊外の區域を嚴密に限定せず、取扱ふ事象によつて隨意に伸縮することとする。

次に都市なるものゝ區域も亦一考を要する。行政上の市域なるものは決して地理的に見た都

廣島市の郊外

市と一致するものではない。随つて行政上の都市以外に都市の伸び出てゐる場合、所謂接續町村（接續市街）なるものゝある場合と、その反對に市域内に純然たる郊外の含まれてゐる場合とがある。廣島市はその後者の場合に相當するか。行政上の市域内にある草津・古江・己斐・矢賀・仁保・向宇品・江波等は郊外として取扱はねばならぬ。併し眞の都市と郊外との境界はやはり漸移的なもので明瞭な界線は劃し難く、且統計は行政區劃を無視しては得難い場合が多いので、本論に於ては時にこの市域内郊外なるものを除外して記述することもある。

廣島市の郊外は大體に於て東西南北の四方に廣がつてゐる。東西二方向は山陽道及び鐵道山

陽線に沿ふて延び、東方は更に鐵道吳線方面に枝を出してゐる。北方は大田川筋、三次街道に沿ふ谷であるが、南方はデルタの尖端及び島嶼であつて、地域が切れ／＼に散在してゐるのである。

この四方向の郊外は夫々特色ある景觀を呈してゐる。これから順次に見て行くことゝしよう

園 藝 地 帯

蔬菜は都市に於て多量に消費せられるものであり、而も遠距離輸送の困難な事情から、郊外に於て栽培せられることが頗る多く、都市の郊外と云へば直ちに蔬菜を聯想する程である。

今廣島市及びその近郊の蔬菜産額を見ると

尚乳牛の飼育及び養鶏等も盛である。

廣島市青果産額
(昭和七年)

豌豆	豆	19,272
蠶豆	豆	4,081
隱胡	元瓜	6,075
胡瓜	瓜	164,464
白瓜	瓜	161,033
南瓜	瓜	85,000
西瓜	瓜	51,738
マクワ	子	84,150
茄子	子	249,210
トマ	根	127,002
大根	干	105,204
切干		1,071
蕪菁	蔘	60,701
人蔘	蔘	34,132
牛蒡	蔘	32,256
里芋	芋	98,368
蓮藕	根	458,640
葱		232,669
玉葱	葱	5,413
ヤベ	菜	53,021
漬菜	菜	68,746
馬鈴薯	薯	41,155
梅		6,216
桃		126,630
ビワ	ワ	63,170
柿		29,744
干柿	柿	96,883
ブドウ	果	61,940
無花果	果	48,993
蜜柑	柑	15,761
果樹	苗	55,933

豆・蠶豆・隱元豆・胡瓜・白瓜・南瓜・西瓜・マクワ瓜・茄子・トマト・大根・切干大根・蕪菁・人蔘・牛蒡・里芋・蓮根・葱・玉葱・キャベジ・漬菜・馬鈴薯の合計が廣島市に於て二百十四萬三千圓で市外は北部が概算三十五萬圓東部が二十五萬圓、南部が十四萬圓、西部が七萬圓である。

かく市の産額が斬然頭角をあらはしてゐるのは市域内に廣い畑地があるからであつて、中でも市の南部即ち最も新しい干拓地域は多く蔬菜の栽培地となつてゐて、農家も多く蔬菜栽培を專業とし露地栽培にあつても四毛作乃至七毛作が行はれ、別に溫床及び溫室栽培も盛に行はれ、

野菜産額一覽

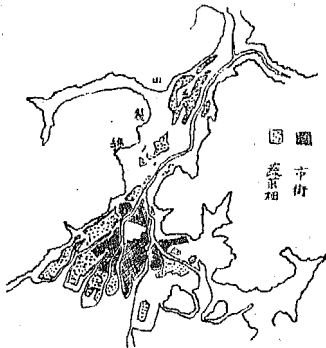
(昭和八年)

廣 島 市		2,143,401 ⁷⁾
東 郊	坂山品中越市田賀野野野	4,404
	戸中温府船海奥畑中瀬熊矢坂	1,879
		8,812
		18,808
		17,996
		12,257
		3,658
		7,959
		13,443
		8,886
北 郊	長山祇原三川八緑安伴片久中深狩福落上	109,898
	東 岡 川内木井 山地原川小未合川	16,493
		21,289
		17,968
		7,942
		5,128
		23,021
		27,823
		92,988
		15,086
西 郊	井五石河八觀廿平原宮	17,369
	口市内内幡晉市良 内	76,625
		12,881
		6,605
		12,022
		8,378
		8,680
		4,669
		6,429
		10,339
南 郊	江三高 田島高田	16,892
		5,422
		21,655
		5,601
		4,919
		6,458
		7,852
		2,475
		9,996
		2,407
		4,639
		246,466
		22,543
		28,114

東部は土地が低濕であるために水田が多く、蔬菜を栽培するためには高畦を作らねばならぬので、水田と蔬菜畑とが幅一、二米位の狭長な

圖 一 第

布分畑菜蔬郊近及市島廣



廣島市の郊外

帶となつて交互に併列し、縞狀の景觀を呈してゐる。又この方面に蓮根の栽培の盛なのも土地の低濕なためである。蓮根の産額は廣島縣が日本一で、廣島灣内の各島嶼にも多いが大部は廣島市の産であると云つてよい。昭和七年の産額は四十五萬八千圓であつた。

西部には己斐を中心として花卉園藝が非常に發達してゐる。これは元和五年に藩主淺野公入國の際、大阪から従つて來た牡丹屋治郎兵衛といふ植木商人が、藩公の命によつてこの地を相し、苗木の栽培を業としたのが濫觴で、この地が山を負ふた南向の斜面で、冬が暖かいといふ

微氣候と、排水がよいといふ微地形とに着眼したものであらうと思はれる。近年郊外住宅地となつて人家密集したため地價が騰貴したのと、風通しがわるくなつて虫害が増加した等の理由で、苗木及び切花の栽培は南方の庚午新開方面に移轉し、己斐町には盆栽と溫室草花のみが残つてゐる状態である。盆栽、就中黒松の盆栽は日本一と稱せられ、産額約三十萬圓、專業三十戸、副業とするもの百戸に及んでゐる。植林用の各種苗木、切花用の花卉は三十町歩に栽培されて十五萬圓を産し、草花栽培には四十八棟四百餘坪の溫室があり、尙後方の山の斜面には三萬本の桃が植ゑてあるが、これは虫害のため年々減少の傾向にある。かくてこの地域に於ける園藝生産の總額は約百萬圓で、その半分以上は各地に移出され、朝鮮・滿洲・臺灣等への輸移出亦頗る多額に上つてゐる。而して市内を行商する花賣りは約七百人である。

市域外では北部方面が主な野菜地帯をなして

第 二 圖

花 卉 野 菜 産 額 分 布



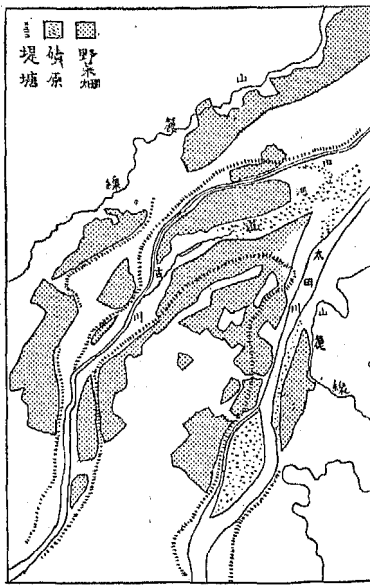
ゐる。市域内に比べると廣い地域に散在してゐるので、著しい集團地域は少いが、それでも川

内村の如きは十萬圓近くの生産があつて、散點聚落内の家と家との間の空間は殆ど全く野菜畑となり、聚落外にあつても河に近い堤塘附近には畑が多い。聚落内に多いのは管理上の便宜といふこともあらうが、それよりも聚落の位置が概して土地の高燥な處にあつて、水田地域とは

五十糎乃至一米位の高度差が見られ畑地とするに都合のよい場所、若くは灌漑の不便なため水田經營の困難な場所なるが爲であると考へられる。川内村附近には太田川本流の外に分流の古川があるが、これは元本流のあつた處で廣い河道の跡があり、そこが良好な野菜畑となつてゐる。この村に最も野菜の産額が多いのは、全くかゝる地形の影響である。而してこの附近の野菜

第三圖 廣島市北部野菜畑と地形との關係

(川内村附近)



廣島市の郊外

菜は畑から車に積んで河岸まで出すと、川舟によつて廣島市に出すことが出来、市では河岸に沿ふて市場があるので舟からすぐ賣場に掲げられるといふ便宜があり、多くの農家が必ず一艘の川舟を所持してゐるのである。

西部即ち佐伯部方面は平地が乏しいためか野菜の栽培はあまり盛でない。東部は土地低濕で畑の經營が困難なため、平野が廣いにも拘はらず北部に比して著しく遜色がある。ただ高原上に位する熊野町に約十萬圓の産額を有するのは異例である。

南部では江田島が殊に盛であるが、それは一面吳市の郊外として發達したもので、廣島市との關係はその北端附近に限られてゐる。

これを要するに園藝地域は、市域内にあつては南部及び西部、市域外にあつては北部が最も卓越してゐて、それは主として地形との關係、一部は氣候及び土質、交通線との關係によるものと考へられるのである。

住宅地域

市街の一部が住宅區域になつてゐることは勿論であるが、それは今こゝでは問題外とする、郊外住宅なるものは都市の本幹と全く離れてゐるか、若くは僅かに接續してゐてもまだ都市的に密集しないで家屋の散在するものを指すこととしたい。この意味からすれば市域内には東西南北共に郊外住宅地を持つてゐる。それ等は何れも耕地であつた部分が、次第に宅地化して行つたもので、やがて家屋が密集するに至れば、完全な都市の一部となる筈のものである。但し中には農村や漁村がそのまま残つてゐる所もあつて、地圖上では郊外住宅地のやうに見えても、實は住宅地でない部分、例へば江波や仁保・草津などの如きものがある。

市域外では東北西の三方面がそれ／＼景觀を異にする。西部は山が直ちに海に迫つてゐるので、氣候も溫和であり風景も最もよい。そこで最も高級な住宅が次第に農村の一角に侵入し、

井口村附近には純然たる別荘もある。低濕な新開地を埋め立てたり、山麓の一部を切り開いて住宅地をつくり、何々園と名づけて土地分譲を行つてゐるものも一二に止まらない。この方向には汽車の外に電車があり、國道も改修せられて交通至便に、夏は海水浴場も各地に開かれ、近く嚴島もあつて保養遊覽地帶たるの景觀も濃厚である。それは地形的に見ても神戸に對する須磨・明石附近に髣髴してゐて、小リベラとも名づけたい程である。

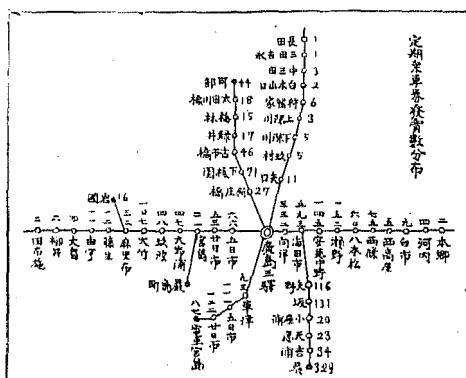
北部の郊外は純然たる農村形態を呈し、時に宏壯なる邸宅を見るけれども、これは都市生活者の別荘ではなくて、所謂米國戻りと稱する海外移民の歸國者で、概ね半ば趣味的に蔬菜園藝を行つてゐるのを常とする。これは他の方面に於ても見られることではあるが、特にこの方面に著しくあらはれてゐる。

東部には比較的低級な住宅が多い。古くからの純粹な農家と、米國戻りの新しく大きな邸宅

得られる。即ち廣島・横川・己斐の三驛に對する定期乗車券の發賣數を見ると第四圖の通りで、

圖 四 第

布分數賣發券車乘期定

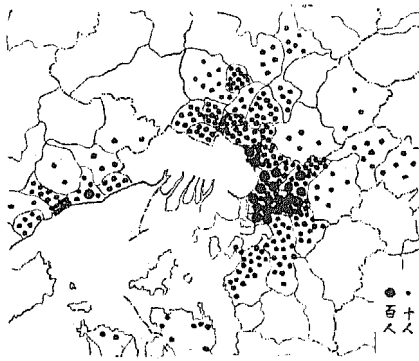


東部	山陽本線	一三七七
北部	吳線	六五三
	藝備線	三七
	廣濱線	二三八
西部	山陽本線及支線	四五二
	宮島線	四一三

となつてゐるし、更に附近各町村役場に照會して、その町村から毎日廣島市へ通勤通學するもの、概數を調べて見ると、前記定期乗車券によるもの、數とは勿論相違すべきであるが、中には不可解な喰ひ違ひもあつて正確を缺くけれども、大體第五圖の様になつて東部が最も濃密であることだけは争へない。思ふにこれは廣島市の大工場が主として東部に存在するからであつてそれは西部に比して海が深く河水も多くて、運輸が大であること、土地が低濕で園藝も盛でなく住宅も少いたため地價が安くて、工場設置に便宜が多いといふやうな原因があつたことと思はれる。

これ等の大工場に通勤するための交通機關としては、鐵道とバスがあるのみであつて、徒歩及び自轉車による通勤者が頗る多く、朝夕田圃

第五圖
廣島市の通勤通學者分布



道を絡繹として續く職工の行列は、又一特殊景觀たるを失はないのである。

遊覽地帶

廣島市民の保養遊覽地としては、市内にも數多の公園があり、春は櫻の名所も多く夏は七本

の川筋が悉く水泳場となり舟遊場ともなるのであるが、郊外にも亦かゝる施設が少くない。即ち北方には南原峽・三瀧觀音・八木梅林等、南方には向宇品・似島及び辨天島の海水浴場の外に釣魚及び汐干狩が行はれ、西方には草津及びチ、ヤス梅林、上野ガーデン、五日市・鹽濱等の海水浴場及び嚴島がある。就中嚴島は廣島市民が一日の清遊を試みるに恰好の場所、遠來の客を款待するにも多く、嚴島に案内するの風があり、春は楓の若葉と櫻、夏は海水浴、秋は紅葉を賞する客も夥しく、祭禮の時は勿論、その他の時期にも神社への參拜をなすもの踵を接し、年々百萬の來島者中の約六七割は廣島市から往復する電車客であつて、少くともその半數以上が廣島市民であると考へられる。毎年缺損續きと云はれる宮島線電車も、この宮島參詣客が收入の大部分となつてゐるのである。

これに反して東方には市民行樂の地がない。たゞ八本松方面に茸狩が行はれるのみである。

茸狩は北方にも所々に行はれ、又可部方面には螢狩、栗拾ひなども行はれる。スキー場は西方及び北方にあるが何れも稍遠きに過ぎて、時間及び費用の點から大衆向となつてゐない。

む す び

廣島市の郊外は東北西の三方面に於て夫々特色ある景觀を呈してゐる。東方は職工の供給地

館^{タテ}名聚落

- 1、館名聚落の分布
- 2、タテの意義と館名聚落の地形的位置
- 3、館名聚落の分類
- 4、結語

1、館名聚落の分布

館の字を用ひた聚落名は東北に多い。此の種の聚落名については、柳田先生の御考察が既にあり、我々の間然する所ではないのであるが、

域、北方は野菜の供給地域、而して西方は休養地域たるの色彩が濃いのである。又市域内について云へば、西部は花卉、南部は蔬菜、東部は太工場の分布が著しい。而してかゝる相違は何れも地勢・地質・氣候等の微細な相違が主な因子となつて働いてゐるものである。

小葉田亮

筆者は唯其の分布について、少しく具體的に見ようと思ふ。館の字を用ひた聚落は、西南日本にても無い事はない。豊前宇佐郡の驛館村、博多・長崎市内の館内なる町名は夫であるが、是等はクワンと音し、朝鮮に多い館里・館洞の場合とその發生意味を同じくするものであらう。